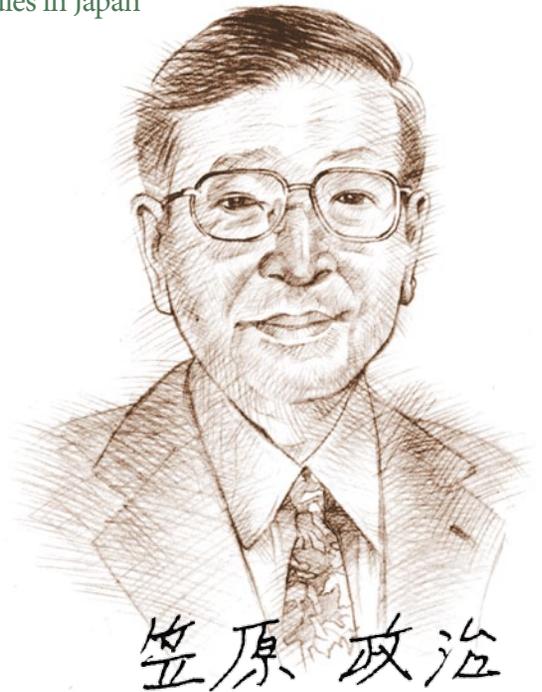


《原教界》與日本的原住民族研究

『原教界』と日本の原住民族研究
Aboriginal Education World and the Aboriginal Studies in Japan

笠原政治 (横濱國立大學名譽教授)

翻譯 | 廖彥琦



原教界の創刊10周年を祝し、これまで編集と出版に尽力されてきた各位に心より敬意を表します。私は日本の人類学者として台湾原住民族の研究をしており、長らく『原教界』を愛読してきました。その私から見て、本誌は企画や執筆陣、記事の質など、あらゆる点でいまや成熟期を迎えているように思います。

祝賀 《原教界》創刊十週年，由衷地對過去以來一直盡力於編輯與出版的各位表達敬意。我身為來自日本的人類學者，持續進行對台灣原住民族的研究，長期以來都是《原教界》的愛讀者。從那樣的我來看，《原教界》無論是企畫、執筆陣容或報導品質等所有面向上，現正進入成熟的階段。

魅力的な情報誌

霧『原教界』の各号は、原住民族の教育を中心に、環境、観光、博物館など、それぞれ多彩なテーマを掲げています。それらのテーマを通して、現在の台湾における社会動向はもとよりのこと、原住民族に関する幅広い情報が整然と伝わってきます。また、記事の執筆者として、研究者や行政担当者のほかに、台湾の各界で活躍する人たちが次々と登場しており、その中に原住民族教育に携わっている現役の教員が多いことも本誌の大きな魅力と言ってよいでしょう。そのような『原教界』に私たち日本の研究者はさまざまな形で啓発されているのです。

記事の執筆者として、研究者や行政担当者のほかに、台湾の各界で活躍する人たちが次々と登場しており、その中に原住民族教育に携わっている現役の教員が多いことも本誌の大きな魅力と言ってよいでしょう。



深具魅力的情報誌

每期《原教界》以原住民族的教育為中心，分別刊登了例如環境、觀光、博物館等豐富多樣的主題。透過這些主題，當今台灣的社會動向自不待言，有關原住民族的廣泛情報也是井然有序地傳遞下來。此外，撰寫報導的執筆者，除了有研究者或行政事務人員外，活躍於台灣各界人士相繼登場，其中也有許多從事原住民族教育的現職教職人員，這點可說是《原教界》極具魅力的所在。《原教界》呈現各式各樣的型態，給予我們日本的研究者諸多的啟發。

日本の原住民族研究

日本は、台湾以外で台湾原住民族の研究が最も盛んな国です。私たちは台北の順益台湾原住民博物館から助成を得て、1994年に「日本順益台湾原住民研究会」を設立しました。現在の会員は28名と決して多いわけではありませんが、これまでに出版した学術雑誌『台湾原住民研究』は全部で17冊、書籍は11冊を数えます。日本の研究者は、ふつう日本統治時代の文献記録や収集品を活用しながら研究を進めるのですが、原住民族をめぐる最新の現地動向となりますと、細部まで知ることはなかなか難しいというのが実情です。新鮮な話題を満載した『原教界』は、そのような私たちにとって頼りがいのある情報源になっています。

日本の原住民族研究

日本は台湾以外進行台湾原住民族研究最積極的國家。我們得到台北的順益台灣原住民博物館的推動與協助，1994年設立了「日本順益台灣原住民研究會」。現在會員有28名，雖然不是非常多，但到現在為止已出版的學術雜誌《台灣原住民研究》全部有17冊，另有其他書籍11冊。日本的研究者，一般雖然能運用戰前日本時代的文獻紀錄或蒐集品等進行研究，但若是瞭解有關台灣當地原住民族的最新動向，甚或箇中細節，實際上是相當困難的。而刊滿新鮮話題的《原教界》，對我們來說，成了可靠的情報來源。



馬淵東一の学問と台湾原住民族研究

『原教界』の中で私にとって特別な思い出があるのは、「馬淵東一」を取り上げた第30期（2009年12月號）です。馬淵教授（1909-88年）は日本を代表する人類学者として活躍し、生涯にわたって台湾の原住民族に愛着を持ち続けました。『原教界』第30期には台湾と日本の双方から心温まる回想文がいくつも寄せられています。馬淵教授の功績や人物像を記したそれらの回想文によって、教授の後継者に当たる私たちの研究姿勢についてもいささか理解を深めていただけることでしょう。

若い世代に向けた情報の発信を

私は2011年に国立政治大學で講義を担当しましたとき、原住民族に対する学生たちの関心が思いのほか強いことに感銘を受けました。受講者のさまざまな反応から、多元文化を尊重する台湾の先進性を再認識したのです。『原教界』は学術界だけを視野に入れた刊行物ではなく、読者の裾野がもっと広いものと考えています。とくに重要なのは若い読者を増やしていくことでしょう。今後は従来の編集方針を続けながら、それと併せて、若い世代の人たちが読みやすく、執筆者としても参加しやすい誌面づくりをされるように期待したいと思います。

日本の研究者、一般雖然能運用戰前日本時代的文獻紀錄或蒐集品等進行研究，但若是要瞭解有關台灣當地原住民族的最新動向，甚或箇中細節，實際上是相當困難的。而刊滿新鮮話題的《原教界》，對我們來說，成了可靠的情報來源。



馬淵東一其人及學問

在《原教界》中，對我而言，特別有記憶的是專門報導「馬淵東一」的30期（2009年12月號）。馬淵教授（1909-88）以代表日本的人類學者活躍著，終其一生保持對台灣原住民族的留戀。在《原教界》30期裡，來自台灣與日本雙方暖人心懷的追憶文也有好幾篇。藉由記載馬淵教授的功績或人物像等這些文章，身為相關研究的後繼者，我們的研究態度，也許能夠獲得更深一層的理解。

傳遞適合年輕世代的情報

2011年我在政治大學擔任客座教授之時，學生對原住民族的關心出乎意料地強烈，使我深受感動。來自聽講者各種不同的迴響，因而重新認識了尊重多元文化的台灣其先進之處。我認為《原教界》不只是一本擁有學術界觀點的刊物，而且應該具備更廣大的讀者群。尤其重要的是，讓年輕的讀者繼續增加下去。期待今後在延續過去編輯方針的同時，也希望做出年輕世代容易閱讀的雜誌，甚或讓他們擔任執筆者，更易於參與其中。◆

原教小事典

馬淵東一（1909-1988年），出生於日本千葉縣，從小在東京成長。雖然考上東京帝國大學經濟學科，卻為了追隨移川子之藏教授，前來台灣就讀台北帝國大學，並於1931年（昭和6年）自文政學部史學科畢業。他從學生時代即被台灣原住民族文化所吸引，每年暑假都會進入原住民族部落進行田野調查，展開台灣原住民族研究。戰後，馬淵東一在東京都立大學等校講授民族學、人類學。

馬淵東一在台灣長達18年，調查對象鎖定鄒族與布農族，在台灣進行田野調查所寫下的許多著作，都已經成為台灣現今研究人類學及民族學的重要參考文獻，如『台灣高砂族系統所屬の研究』、『高砂族の分類：學史的回顧』、『高砂族に関する社會人類學』等等。

馬淵東一對台灣懷有深厚情感，逝世後葬於台灣台東縣池上鄉。

2009年，馬淵東一100歲誕辰，政治大學原住民族研究中心為了紀念這位對台灣原住民族研究貢獻良多的學者，第二屆「台日原住民族研究論壇」以「馬淵東一的學問與台灣原住民族研究」為主題，親友及門生全都齊聚一堂。《原教界》第30期特別進行專題報導。另外，過往與馬淵東一教授接觸過的部落族人、學生與親屬也都致上對馬淵東一教授的感念，見證馬淵東一對台灣原住民族研究的貢獻。



第二屆「台日原住民族研究論壇」為了紀念馬淵東一100歲誕辰，特地製作一套「花語綻原鄉」紀念郵票。

(圖片提供 編輯部)

